

令和 6 年産

大崎麦作情報 第 1 号

令和 5 年 10 月 18 日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL0229-91-0726 FAX0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～令和 6 年産麦の安定生産に向けて～

- 生育量を確保しましょう。
→播種晩限：10月20日！まだ播種していないほ場では速やかに播種を！
- 生育調節のため、麦踏みを行きましょう。
→麦踏み（踏圧）：年内1回、越冬後1～2回が目安
- 収量・品質向上のため、追肥を行きましょう。
→追肥：幼穂形成期、減数分裂期、穂揃期（小麦のみ）

○年内の栽培ごよみ

時期	10月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
生育ステージ			出芽 (播種後約10日)			幼苗期 (2～3葉期)			
主な作業		播種	除草剤散布				麦踏み (越冬前)		除草剤散布

年内中に1回行いましょう！

○年内目標生育量

葉数：5～6枚、分けつ：1～2本/株、莖数：400～500本/m²

1 ほ場準備

(1)排水対策

麦は湿害に弱い作物です。明きよと暗きよを適切に施工して排水対策を行いましょう。

○明きよ

- ・溝の幅、深さは20~30 cm程度とし、後の作業に支障がない程度としましょう。
- ・明きよと排水溝は必ず連結させましょう。
- ・排水不良のほ場は、ほ場内にも5~10mの間隔に1本の割合で明きよを掘り、ほ場外へ排水できるようにしましょう。

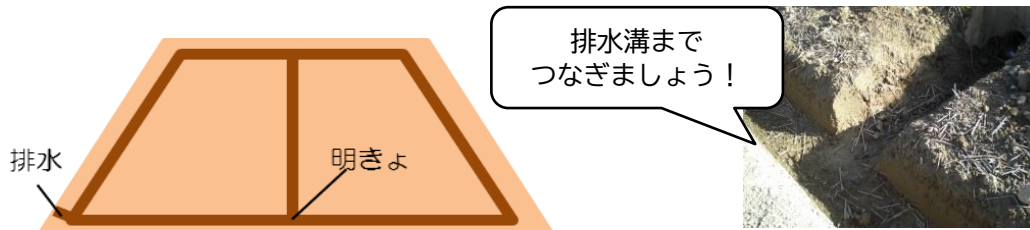


図1 明きよの施工例

写真1 明きよと排水溝をつなぐ

○暗きよ

- ・本暗きよと補助暗きよを組み合わせ、排水の効果を高めましょう。
- ・補助暗きよは、弾丸暗きよや心土破碎が一般的

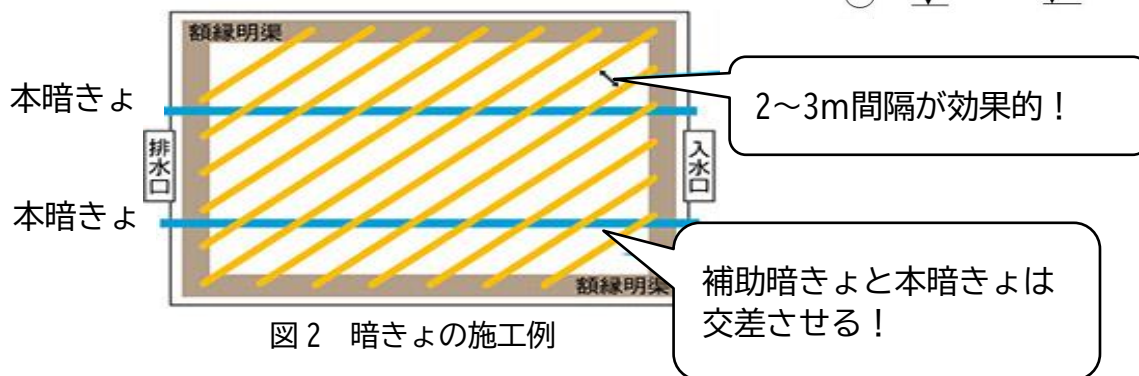
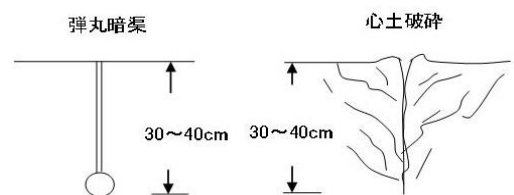


図2 暗きよの施工例

(2)土づくり

○酸度矯正

- 麦は微酸性~中性の土壤酸度を好みます。
- 定期的に土壤診断を受け、土壤酸度を調整しましょう。
- 目安：pH5.6~6.5 (小麦) ※転換畑の土壤酸度は通常 pH5.0~6.0 程度

○地力増進

- 毎年堆肥等を投入し、地力維持に努めましょう。
- 有機物は土壤の物理性改善、微生物の増殖、緩効的養分供給の効果が有ります。
- 目安：稲わら・籾殻等が主体の堆肥…2t/10a 程度
- 牛ふん堆肥 (窒素含有率 1%程度) …1t/10a 以内
- 豚ふん堆肥 (窒素含有率 2%程度) …500kg/10a 以内

(3)基肥

○10aあたりの標準施肥量

- 窒素 8~10 kg、リン酸 8~10 kg、加里 10 kg
- ※稲わらをすき込んだほ場は、窒素を1~2割増で施用してください。

2 播種

(1)適期播種

播種適期…10月5～10日（北部平坦地域）

播種晩限…10月20日（北部平坦地域）

播種が遅れるとさまざまな弊害があります。

適期播種を行い、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

播種遅れによる弊害

出芽遅れによる初期生育量の不足、根張りの不良、茎数不足、出穂のバラつき、未熟粒の発生等が挙げられます。

その結果、収量と品質の低下に繋がります。

(2)播種量・播種方法

○播種量：8～10 kg/10a（ドリル播き）

播種時期が10月20日を過ぎる場合は、茎数確保のため、播種量をやや多めにしましょう。

○播種方法（ドリル播き）

条間は15～30 cm、播種深度は3 cmが目安

播種作業にあたっては、碎土を入念に行い、覆土不良や浅播きにならないよう注意してください。

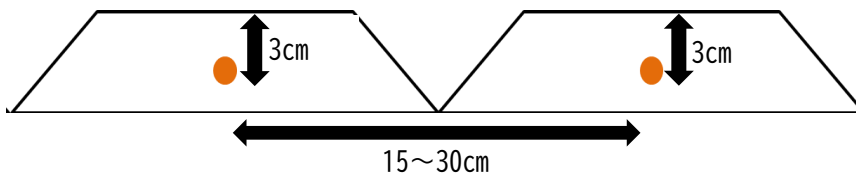


図3 播種が目安



写真2 播種の様子
（ドリル播き）

3 雑草防除(土壌処理剤)

雑草は土壌養分の競合、病害虫の誘発、種子混入等により品質・収量に影響します。前年雑草の発生が多かったほ場では、必ず土壌処理剤を散布しましょう。

土壌処理剤の効果を上げるためには、ほ場の碎土率を上げる・早めの散布（播種翌日まで）・適度な土壌水分時の散布を心掛けましょう。

※土壌乾燥時に散布する際は、登録範囲内にて希釈水量を多くしましょう。

表1 小麦の主な土壌処理剤

除草剤名	適用雑草	使用時期	希釈倍数・使用量 (散布液量)
ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期)	400～500mL/10a (50～100L/10a)
ガレース乳剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	200～250mL/10a (100L/10a)
リベレーター フロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イ科雑草1葉期まで)	60～80mL/10a (100L/10a)
ムギレンジャー 乳剤	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～600mL/10a (通常散布 50～100L/10a)

農薬の登録情報 (令和5年10月11日現在)

4 麦踏み(踏圧)

耐寒性、耐干性強化などのために麦踏みを行いましょう。

○作業時期：越冬前の12月上～中旬（ほ場に凍結層ができる前）

※2回目以降は3月上・中旬（生育が再開する再生期以降）に行いましょう。

○生育状況：離乳期（3～4葉期）～茎立ち前（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）

※幼穂長が3mm以上になると麦の生育に悪影響を及ぼすので注意しまししょう。

麦踏みの主な効果

○麦への効果

耐寒性、耐干性の強化、徒長や茎の早立ちの防止、分けつ増加、
分けつ相互の生育調整、穂揃いの均一化、深根化、稈の強剛化

○土壌への効果

霜柱、干害による被害の軽減、強風による土移動の軽減と防止

遅まきの場合、麦の生育量が足りず茎が折損する恐れがあります。

また過湿ほ場の場合、耕土を固結させて根の発育を阻害する恐れがあります。

いずれも逆効果なので、麦の生育状況とほ場の状態にご注意してください。

◆◆◆◆◆秋の農作業安全確認運動実施中（9月1日～11月30日）◆◆◆◆◆

農業機械作業による死亡事故割合が高い状況を踏まえ、①ほ場周辺の危険箇所の確認・改善及び危険回避行動の実践、②シートベルトとヘルメットの着用、③トラクターへの安全フレーム・安全キャブの使用の呼びかけを行います。

重点推進テーマ 「徹底しよう！農業機械の転落・防止対策」

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索、または右のQRコードを読み取ってください。

